

## 159. 下水道の普及雑感

技術戦略部次長 白崎 亮

本月も技術戦略部のメルマガをご愛読いただきありがとうございます。さて、今回はベーシックな下水道整備などについて少し書いてみたいと思います。

先月、国土交通省より平成27年度末の下水道処理人口普及率及び汚水処理人口普及率などが公表されました。それによれば、全国の下水道処理人口普及率は77.8%、下水道整備人口は9,926万人、汚水処理人口普及率は89.9%、汚水処理施設の処理人口は1億1,474万人となっています。

私が就職し、社会人になった頃には、下水道処理人口普及率は40-50%程度で、全国的に普及の真っ只中といった時代でした。また、当時それまで住んでいた故郷には下水道は普及しておらず、学校等も単独浄化槽だったような記憶があります。その後、何年か経って実家へ帰省してみると下水道が整備されており、感激した記憶があります。このような時代に下水道業界に身をおいた者からすると、普及もここまで来たかという感じがします。下水道普及率の向上にともない、河川等の水質が改善しているのは皆さんご承知のことと思います。(下水道のストック効果です)

さて、下水道が普及する前の私が小さい頃には、し尿は軽トラック等で畑に運搬後、自家処理(所有している畑に農地還元する手法)を行っており、自分も大きくなったらやるのかな(やらざるを得ないのかな)と思っていましたが、幸か不幸かその機会はおとずれませんでした。数ヶ月毎にこの仕事を家族のために黙々とこなす父親は偉いなど尊敬していました。なお、その畑も、今では、土地改良事業により区画が大きくなり、農道とともに整然と整備されています。

このメルマガを読んでいる方は、生まれたときから下水道が整備されていたという方も多いのではないのでしょうか。しかし、下水道は整備して終わりではありません。他のインフラよりも維持管理のウエイトが大きいのが下水道の特徴でもあります。また、普及が進めば、下水管を通じて下水処理場に集まる水、有機物、りん、窒素、熱といった資源も増えるということになり、今後ますます資源・エネルギー利用といった面で期待されることも増えてきます。実際、日本各地で、下水道施設・下水道資源を活用した様々な取り組みが行われています。下水道の普及に伴い、やること、やれることも増えてきます。一度、発想を変えて新たなことに取り組んでみては如何でしょうか。下水道が地域に貢献できる可能性は増えています。